

本道で展開される多様な農業経営

農業関係者をはじめ、多くの道民の皆様に、第6期北海道農業・農村振興推進計画に掲げる本道農業・農村の「めざす姿」を具体的に思い描いていただけるよう、他産業従事者と遜色のない年間労働時間の水準を達成しつつ、他産業従事者並みの所得を確保できる農業経営のモデルを、稲作、酪農などの営農類型別と規模別に例示します。

農業経営モデル		経営の特徴
個別 経営体	水稲畑野菜複合	水稲に一部直播を導入し、転作麦・大豆や露地野菜を組み合わせた複合経営
	有機水稲畑野菜複合	水稲の一部と畑作・野菜の有機栽培による複合経営
	畑作野菜複合	畑作物4品に加工・業務用野菜を取り入れた複合経営
	野菜専業	施設野菜の専業経営
	花き専業	カーネーション、ゆりの花き専業経営
	果樹専業	りんご・おうとう基幹の果樹専業経営
	酪農専業(1)	集約放牧を取り入れた経産牛40頭規模の酪農専業経営
	酪農専業(2)	フリーストール牛舎による経産牛150頭規模の酪農専業経営
	肉用牛専業	黒毛和牛の繁殖肥育一貫経営
組織 経営体	大規模稲作複合	5戸の法人経営で、水稲の一部やてん菜に直播を導入し、野菜を組み合わせた複合経営
	大規模畑作専業	5戸の法人経営による大規模な畑作専業
	大規模酪農専業	5戸の法人経営による経産牛500頭規模の酪農専業経営

※ 北海道農業経営基盤強化促進基本方針（令和3年(2021年)3月改定）、北海道花き振興計画（令和3年(2021年)3月改定）、北海道果樹農業振興計画（令和3年(2021年)3月改定）及び第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画（令和3年(2021年)3月策定）に記載のある、現在開発されている技術によって実現可能な農業経営の指標を抜粋。

稲作地域のイメージ



畑作地域のイメージ



酪農地域のイメージ



中山間地域のイメージ



【個別経営体】

農業経営モデル	水稲畑野菜複合		
経営の特徴	水稲に一部直播を導入し、転作麦・大豆に露地野菜を組み合わせた複合経営		
経営規模		農業従事の態様等	
<p><作付面積等></p> <p>経営面積計 25.0ha (うち借地 6.3ha)</p> <p>(内 訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲 15.0ha (うち移植) (10ha) (うち直播) (5ha) ・小麦 6.0ha (うち春まき・秋まき) (2ha・4ha) ・大豆 3.0ha ・キャベツ 1.0ha 		<p><労働></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族 2人 (1,900時間) (主たる従事者1人当たり 1,460時間) ・雇用 (230時間) <p><経営収支></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業粗収益 3,580万円 ・農業経営費 2,380万円 ・農業所得 1,200万円 (主たる従事者1人当たり 920万円) 	
生産方式			
<p><主な機械施設装備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗用型トラクター(51kw) 1台 ・歩行型トラクター(3.7kw) 1台 ・農用トラック(2tダンプ) 1台 ・野菜移植機 1台 ・育苗ハウス(水稲用) 5棟 ・乗用田植機(8条) 共同利用 ・湛水直播機 共同利用 ・乗用管理機 共同利用 ・汎用コンバイン 共同利用 ・水田用栽培管理ビークル 共同利用 		<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローンによる防除を作業委託 ・需給動向と栽培適地・栽培特性に即した品種の選択 	
～作業のイメージ～			
耕起・整地	移植・播種	栽培管理	収穫
 <p>○自動操舵システムによる省力化</p>	 <p>○直進アシスト機能付き田植え機</p>  <p>●直播機(共同利用)による直播栽培</p>	 <p>●ドローンによる防除(委託)</p>	 <p>汎用コンバインによる稲刈り</p>  <p>キャベツ収穫の様子</p>
<p>写真注記 ○：スマート農業技術関連 ●：営農支援組織の活用や機械の共同利用</p>			

【個別経営体】

農業経営モデル	有機水稲畑野菜複合		
経営の特徴	水稲の一部と畑作・野菜の有機栽培による複合経営		
経営規模		農業従事の態様等	
<作付面積等> 経営面積計 19.0ha (うち借地 4.8ha) (内 訳) ・水稲 13.0ha (うち有機) (4.0ha)		<労働> ・家族 3人 (2,940時間) (主たる従事者1人当たり 1,800時間)	
・有機大豆 2.0ha ・有機かぼちゃ 2.0ha ・緑肥 2.0ha		<経営収支> ・農業粗収益 2,750万円 ・農業経営費 1,900万円 ・農業所得 850万円 (主たる従事者1人当たり 520万円)	
生産方式			
<主な機械施設装備> ・乗用型トラクター(37kw) 1台 ・農用トラック(軽トラック) 1台 ・水田除草機 1台 ・ドロオイクリーナー 1台		<その他> ・水稲有機栽培は、除草機による雑草対策、ドロオイクリーナーによる病害対策 ・堆肥センターから良質有機物の供給	
・クローラトラクター(59kw) 共同利用 ・乗用田植機(8条) 共同利用 ・自脱型コンバイン 共同利用 ・稲ワラ収集機 共同利用			
～作業のイメージ～			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 耕起・整地 移植・播種 栽培管理 収穫 </div>			
 ○自動操舵システムによる省力化		 田植えの様子	
		 水田除草機による雑草対策	
		 緑肥栽培による土づくり	
		 自脱型コンバインによる稲刈り	
		 かぼちゃの収穫	
写真注記 ○：スマート農業技術関連			

【個別経営体】

農業経営モデル	畑作野菜複合		
経営の特徴	畑作物4品に加工・業務用野菜を取り入れた複合経営		
経営規模		農業従事の態様等	
<作付面積等> 経営面積計 50.0ha (うち借地 13.4ha) (内 訳) ・秋小麦 13.5ha ・小豆 3.5ha ・てん菜(移植) 10.5ha ・いんげん 3.5ha ・生食加工馬鈴しょ 10.5ha ・たまねぎ 5.0ha ・大豆 3.5ha (直播:加工・業務用)		<労働> ・家族 3人 (3,810時間) (主たる従事者1人当たり 2,000時間) ・雇用 (1,060時間) <経営収支> ・農業粗収益 6,760万円 ・農業経営費 5,280万円 ・農業所得 1,480万円 (主たる従事者1人当たり 780万円)	
生産方式			
<主な機械施設装備> ・乗用型トラクター(44kw) 1台 ・動力噴霧器 1台 ・乗用型トラクター(59kw) 1台 ・ポテトハーベスター 1台 ・農用トラック(4tダンプ) 1台 ・ビートハーベスター 1台 ・育苗ハウス(てん菜用) 1棟 ・根切り機(4条) 1台 ・総合播種機 1台 ・たまねぎ収穫機 1台 ・グレンドリル 1台 (コンテナ・ピッカー8条) ・ポテトプランター 1台 ・乗用型トラクター(81kw) 共同利用 ・ビート移植機 1台 ・ロータリーリッジャー 共同利用 ・精密播種機 1台 ・豆用コンバイン 共同利用		<その他> ・秋まき小麦の大豆間作播種や省力的野菜作の導入による4年輪作の実施 ・秋まき小麦収穫後に後作緑肥を栽培し土づくりを推進 ・生食加工馬鈴しょは早期培土の技術体系 ・たまねぎは直播栽培方式とし、収穫は自家作業	
～作業のイメージ～			
耕起・整地	移植・播種	栽培管理	収穫
 ○自動操舵システムによる省力化	 肥料と種を同時に播くことが可能な総合播種機	 ○可変施肥技術の導入による施肥量の削減	 ●豆用コンバイン(共同利用)による収穫
	 播種、移植作業の様子 たまねぎ直播(左)、てん菜移植(右)		 たまねぎの収穫
写真注記 ○：スマート農業技術関連 ●：営農支援組織の活用や機械の共同利用			

【個別経営体】

農業経営モデル	野菜専業	
経営の特徴	施設野菜の専業経営	
	経営規模	農業従事の態様等
<p><作付面積等> 経営面積計 0.87ha</p> <p>(内 訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマト 0.87ha (半促成長期どり) (0.30ha) (夏秋どり) (0.57ha) 	<p><労働></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族 3人 (5,200時間) (主たる従事者1人当たり 2,000時間) ・雇用 (2,560時間) <p><経営収支></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業粗収益 3,250万円 ・農業経営費 1,970万円 ・農業所得 1,280万円 (主たる従事者1人当たり 490万円) 	
生産方式		
<p><主な機械施設装備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗用型トラクター(22kw) 1台 ・歩行型トラクター(3.7kw) 1台 ・農用トラック(軽トラック) 1台 ・栽培ハウス 26棟 	<ul style="list-style-type: none"> ・動力噴霧器 1台 ・自動換気装置 26台 ・自動かん水システム 3台 ・給水ポンプ 3台 	<p><その他></p> <p>・トマトは、収益性の高い2作型を組み合わせることで所得の確保と労働の平準化を図る</p>
～作業のイメージ～		
<p>○温度センサーにより換気を自動制御(左)、かん水は液肥と混合し、あらかじめ決めた時間に施用(右)</p>		<p>トマト収穫の様子</p>
<p>生産技術向上に向けた生産者部会活動の様子</p>		<p>トマトの共同選果場(左) 選果場でのトマトの選別・箱詰め(右)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">写真注記 ○：スマート農業技術関連</div>		

【個別経営体】

農業経営モデル	花き専業	
経営の特徴	カーネーション・ゆりの花き専業経営	
	経営規模	農業従事の態様等
<p><作付面積等> 経営面積計 1.0ha</p> <p>(内 訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーネーション 0.7ha ・ゆり 0.3ha 	<p><労働></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族 3人 (6,000時間) (主たる従事者1人当たり 2,000時間) ・雇用 (5,760時間) 	<p><経営収支></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業粗収益 4,630万円 ・農業経営費 3,090万円 ・農業所得 1,540万円 (主たる従事者1人当たり 510万円)
生産方式		
<p><主な機械施設装備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗用型トラクター(22kw) 1台 ・歩行型トラクター(3.7kw) 1台 ・農用トラック(軽トラック) 1台 ・栽培ハウス(6.3×50m) 30棟 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫 1台 ・暖房機器 5台 ・自動換気装置 30台 ・自動かん水システム 4台 ・給水ポンプ 4台 	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーネーションの作型は、4月植え9～10月切りで砂あげ苗を購入し利用、4月植えの無加温9～10月切り栽培の25%を据え置き2年切りとして組入れ ・ゆりは、凍結貯蔵球を5月に定植して9月に採花する作型と、その採花後の球根を掘り取らずにそのまま据え置いたまま翌年7月に採花する作型をそれぞれ導入
～作業のイメージ～		
		
 <p>カーネーションを栽培するパイプハウス(左)とハウス内のカーネーション(右)</p>		 <p>出荷直前のカーネーション</p>
 <p>○温度センサーにより換気を自動制御(左)、かん水は液肥と混合し、あらかじめ決めた時間に施用(右)</p>		 <p>共選施設における選花の様子</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">写真注記 ○：スマート農業技術関連</div>		

【個別経営体】

農業経営モデル	果樹専業		
経営の特徴	りんご・おうとう基幹の果樹専業経営		
経営規模		農業従事の態様等	
<作付面積等> 経営面積計 4.80ha (うち成園 4.30ha) (内 訳) ・りんご 3.20ha ・西洋なし 0.31ha ・おうとう(雨よけ) 0.55ha ・プルーン(露地) 0.30ha ・おうとう(露地) 0.11ha ・ぶどう(露地) 0.33ha		<労働> ・家族 3人 (3,940時間) (主たる従事者1人当たり 2,000時間) ・雇用 (1,600時間) <経営収支> ・農業粗収益 2,790万円 ・農業経営費 1,490万円 ・農業所得 1,300万円 (主たる従事者1人当たり 660万円)	
生産方式			
<主な機械施設装備> ・乗用型トラクター(22kw) 1台 ・乗用型トラクター(37kw) 共同利用 ・農用トラック(2tダンプ) 1台 ・スピードスプレーヤー 共同利用 ・おうとう雨よけハウス 6棟		<その他> ・防除・施肥技術はクリーン農業技術体系を基本 ・販売方法は、市場出荷のほか直売も実施	
～作業のイメージ～			
栽培管理		収穫	
 おうとうの雨よけハウス	 防除に用いる スピードスプレーヤー	 収穫期を迎えたおうとう	 りんごの収穫の様子
 りんごの受粉の様子		 選果場における選果の様子(おうとう)	

【個別経営体】

農業経営モデル	酪農専業（1）		
経営の特徴	集約放牧・経産牛40頭経営		
経営規模		農業従事の態様等	
<作付面積等> 経営面積計 58.8ha （うち借地 11.8ha） （内 訳） ・牧草（採草） 45.5ha ・牧草（放牧） 13.3ha	<飼養頭数> 経産牛 40頭 育成牛 29頭 常時飼養頭数 69頭	<労働> ・構成員家族 2人（3,600時間） （主たる従事者1人当たり 1,800時間） ・雇用 540時間 <経営収支> ・農業粗収益 3,800万円 ・農業経営費 2,710万円 ・農業所得 1,090万円 （主たる従事者1人当たり 540万円）	
生産方式			
<主な機械施設装備> ・成牛舎(400㎡) 1棟 ・バルククーラー(5,000ℓ) 1台 ・カーフハッチ 5個 ・育成舎(210㎡) 1棟		<その他> ・パイプラインミルクカー(6台) 1式 ・堆肥舎(263㎡) 1式 ・尿溜(202㎡) 1式 ・バーンクリーナー 1式 ・つなぎ飼いによる飼養管理 ・コントラクターによる粗飼料収穫と堆肥散布の外部化	
～作業のイメージ～			
〔搾乳〕			
哺育・育成  育成牛の放牧	給餌・放牧  集約放牧の実施	交配・分娩  牛群検定データを活用した飼養・繁殖管理	搾乳  つなぎ飼い牛舎での搾乳
〔牧草〕			
草地整備(改良)(更新)(管理)・収穫・飼料調製			
 			
●コントラクターによる牧草収穫（左）、ロールサイレージづくり（右）			
写真注記 ●：営農支援組織の活用や機械の共同利用			

【個別経営体】

農業経営モデル	酪農専業（２）		
経営の特徴	フリーストール牛舎による経産牛150頭経営で、飼料生産と育成部門の外部化経営・搾乳ロボット、自動給餌機、えさ寄せロボットによる省力化		
経営規模		農業従事の態様等	
<作付面積等> 経営面積計 132.0ha （うち借地 29.7ha） （内 訳） ・牧草（採草） 109.7ha ・サイレージ用とうもろこし 22.3ha	<飼養頭数> 経産牛 150頭 育成牛 103頭 常時飼養頭数 253頭	<労働> ・家族 2人（2,650時間） （主たる従事者1人当たり 1,800時間） <経営収支> ・農業粗収益 17,360万円 ・農業経営費 13,270万円 ・農業所得 4,090万円 （主たる従事者1人当たり 2,780万円）	
生産方式			
<主な機械施設装備> ・フリーストール牛舎(1,650㎡) 1棟 ・搾乳ロボット 2台 ・バルククーラー(10,000ℓ) 1台 ・カーフハッチ 17個		<その他> ・スラリーストア(1,274㎡) 1基 ・えさ寄せロボット 1台 ・自動給餌機 1式 ・フリーストール方式による飼養 ・哺育・育成牛の預託による外部化 ・TMRセンターによる粗飼料収穫と堆肥散布の外部化	
～作業のイメージ～			
〔搾乳〕			
哺育・育成	給餌	交配・分娩	搾乳
 <p>● 哺育・育成センターへの哺育作業の外部化</p>	 <p>○ 自動給餌機（左） ○ えさ寄せロボット（右）</p>	 <p>牛群検定データを活用した飼養・繁殖管理</p>	 <p>○ 搾乳ロボット</p>
〔牧草〕			
草地整備(改良)(更新)(管理)・収穫・飼料調製			
 <p>● TMRセンターによる牧草収穫（左）、バンカーサイロへの踏み込み作業（右）</p>			
写真注記 ○：スマート農業技術関連 ●：営農支援組織の活用や機械の共同利用			

【個別経営体】

農業経営モデル	肉用牛専業	
経営の特徴	黒毛和牛の繁殖肥育一貫経営	
経営規模		農業従事の態様等
< 作付面積等 > 経営面積計 56.4ha (うち借地 16.0ha) (内 訳) ・ 牧草 (乾草) 9.8ha ・ 牧草 (サイレージ) 19.5ha ・ サイレージ用とうもろこし 5.8ha ・ 牧草 (放牧) 21.3ha	< 飼養頭数 > 繁殖牛 (黒毛) 70頭 後継牛 24頭 育成牛 18頭 肥育牛 81頭 常時飼養頭数 193頭	< 労働 > ・ 家族 2人 (3,400時間) (主たる従事者1人当たり 1,800時間) ・ 雇用 (1,350時間) < 経営収支 > ・ 農業粗収益 6,400万円 ・ 農業経営費 4,140万円 ・ 農業所得 2,260万円 (主たる従事者1人当たり 1,200万円)
生産方式		
< 主な機械施設装備 > ・ 肥育牛舎 (529㎡) 1棟 ・ 育成牛舎 (160㎡) 1棟 ・ 分娩牛舎等 (174㎡) 1式 ・ 堆肥舎 (1,128㎡) 1式 ・ TMRミキサー 1台		< その他 > ・ 経営内一貫経営 ・ コントラクターによる粗飼料収穫と堆肥散布の外部化
～作業のイメージ～ [繁殖・肥育]		
> 交配・分娩 (放牧を活用した繁殖管理) > 哺育・育成 > 肥育		
 <p>和牛の放牧の様子</p>	 <p>カーフジャケットによる子牛の寒冷対策</p>	 <p>飼養技術の向上による肥育期間の短縮</p>
[牧草]		
> 草地整備(改良)(更新)(管理)・収穫・飼料調製 >		
 <p>●コントラクターによる 牧草収穫 (左)、ロールサイレージづくり (右)</p>		
写真注記 ●：営農支援組織の活用や機械の共同利用		

【組織経営体】

農業経営モデル	大規模稲作複合		
経営の特徴	5戸の法人経営で、水稻の一部やてん菜に直播を導入し、野菜を組み合わせた複合経営		
経営規模		農業従事の態様等	
<作付面積等> 経営面積計 120.0ha (うち借地 23.6ha) (内 訳) ・水稻 60.0ha (うち移植) (40ha) (うち直播) (20ha) ・秋小麦 20.0ha ・大豆 20.0ha	<構成員戸数> 5戸	<労働> ・構成員家族 13人 (10,630時間) (主たる従事者1人当たり 1,530時間) ・雇用 (5,380時間)	
・てん菜(直播) 10.0ha ・キャベツ 4.0ha ・ねぎ 3.0ha ・ブロッコリー 3.0ha	<経営収支> ・農業粗収益 21,430万円 ・農業経営費 13,110万円 ・農業所得 8,320万円 (主たる従事者1人当たり 1,200万円)		
生産方式			
<主な機械施設装備> ・乗用型トラクター(37kw) 5台 ・乗用型トラクター(74kw) 2台 ・クローラトラクター(59kw) 1台 ・農用トラック(2tダンプ) 3台 ・農用トラック(軽トラック) 5台 ・育苗ハウス(水稻用) 20棟 ・育苗ハウス(ねぎ用) 5棟	・レーザーレベラー 2台 ・田植機(乗用8条) 2台 ・乾田直播専用施肥播種機 2台 ・乗用管理機 1台 ・汎用コンバイン 2台 ・全自動野菜移植機 2台 ・水管理システム(親機) 1台 ・水管理システム(子機) 30台	<その他> ・ドローンによる防除を作業委託 ・需給動向と栽培適地・栽培特性に即した品種の選択 ・露地野菜は昨期を分散して長期継続出荷し、労働の季節偏差を縮小 ・セル成型苗による機械移植による省力化	
～作業のイメージ～			
耕起・整地・育苗  ○自動操舵システムによる省力化  ハウスでの育苗  レーザーレベラーを用いた高精度な均平作業を実現	移植・播種  ○直進アシスト機能付き田植え機  乾田直播専用施肥播種機	栽培管理  ●ドローンによる防除(委託)  ○自動水管理システムによる水管理	収穫  汎用コンバインによる稲刈り  ブロッコリーの収穫
写真注記 ○：スマート農業技術関連 ●：営農支援組織の活用や機械の共同利用			

【組織経営体】

農業経営モデル	大規模畑作専業		
経営の特徴	5戸の法人経営による大規模な畑作専業経営		
経営規模		農業従事の態様等	
<作付面積等> 経営面積計 190.0ha (うち借地 51.1ha) (内 訳) ・秋小麦 45.0ha ・てん菜(移植) 45.0ha ・生食加工馬鈴しょ 30.0ha ・でん原馬鈴しょ 15.0ha	<構成員戸数> 5戸 <その他> 農作業受託 50.0ha	<労働> ・構成員家族 10人 (8,830時間) (主たる従事者1人当たり 1,490時間) ・雇用 (1,570時間)	<経営収支> ・農業粗収益 23,560万円 ・農業経営費 16,890万円 ・農業所得 6,670万円 (主たる従事者1人当たり 1,130万円)
生産方式			
<主な機械施設装備> ・乗用型トラクター(44kw) 3台 ・乗用型トラクター(59kw) 4台 ・乗用型トラクター(81kw) 1台 ・農用トラック(4tダンプ) 5台 ・ベッドフォーマ 1台 ・セパレータ 1台 ・馬鈴しょ深植2畦プランタ 2台 ・ビート移植機 2台		<その他> ・4年輪作 ・秋まき小麦収穫後に後作緑肥を栽培し土づくりを推進 ・馬鈴しょソイルコンディショニングシステムを導入 ・秋まき小麦、てん菜、馬鈴しょ(生食・加工)の植付、移植、収穫作業を受託	
～作業のイメージ～			
耕起・整地		移植・播種	
 ○自動操舵システムによる省力化		 肥料と種を同時に播くことが可能な総合播種機	
 馬鈴しょソイルコンディショニングシステム 左：ベッドフォーマによる畦立て 中：セパレータによる土塊・石礫の分離 右：深植プランタによる植え付け		栽培管理	
		 ○可変施肥技術の導入による施肥量の削減	
		収穫	
		 豆用コンバインによる収穫	
		 ポテトハーベスターによる馬鈴しょ収穫	
写真注記 ○：スマート農業技術関連			

【組織経営体】

農業経営モデル	大規模酪農専業		
経営の特徴	5戸の法人経営による経産牛500頭経営		
経営規模		農業従事の態様等	
<作付面積等> 経営面積計 448.7ha (うち借地 100.9ha) (内 訳) ・牧草(採草) 374.2ha ・サイレージ用とうもろこし 74.5ha	<構成員戸数> 5戸	<労働> ・構成員家族 9人(16,800時間) (主たる従事者1人当たり 2,000時間) ・雇用 5,240時間	
	<飼養頭数> 経産牛 500頭 育成牛 339頭 常時飼養頭数 839頭	<経営収支> ・農業粗収益 53,720万円 ・農業経営費 37,580万円 ・農業所得 16,140万円 (主たる従事者1人当たり 1,920万円)	
生産方式			
<主な機械施設装備> ・フリーストール牛舎(4,843㎡) 1棟 ・ミルクパーラー(976㎡) 1棟 ・ミルクシステム(ロータリー40頭用) 1式 ・バルククーラー(15,000ℓ) 1台 ・分娩舎(481㎡) 1棟 ・哺育舎(275㎡) 1棟 ・育成舎(2,523㎡) 1棟 ・乾乳舎(199㎡) 1棟		<その他> ・フリーストール方式による飼養 ・ミルクパーラーによる搾乳 ・公共牧場を利用した育成牛管理	
・バンカーサイロ(15,262㎡) 1式 ・スラリストア(5,391㎡) 1基 ・自動哺乳システム 2台 ・えさ寄せロボット 2台 ・自動給餌機 1式 ・ミキサーフィーダー 1台 ・自走ハーベスタ等 1式 牧草収穫機械			
～作業のイメージ～ [搾乳]			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="width: 20%;"> <p>哺育・育成</p>  <p>○自動哺乳システム(左) ●公共牧場への育成預託(右)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>給餌</p>  <p>○自動給餌機(左) ○えさ寄せロボット(右)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>交配・分娩</p>  <p>牛群検定データを活用した飼養・繁殖管理</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>搾乳</p>  <p>ミルクパーラー(ロータリー式)</p> </div> </div>			
[牧草]			
<div style="text-align: center;"> <p>草地整備(改良)(更新)(管理)・収穫・飼料調製</p>  <p>自走ハーベスタでの牧草収穫</p> </div>			
写真注記 ○：スマート農業技術関連 ●：営農支援組織の活用や機械の共同利用			